

5/8 私立 教習所

テキスト, 演習課題

● 3/23 ~ 4/3 春期講習 (プリント)

直見箱

● 4/20 (A) ~ 5/1 (金) ライブ授業 テキスト

1, 2, 3, 5 講 (深)

ただし. A, B 問が中心

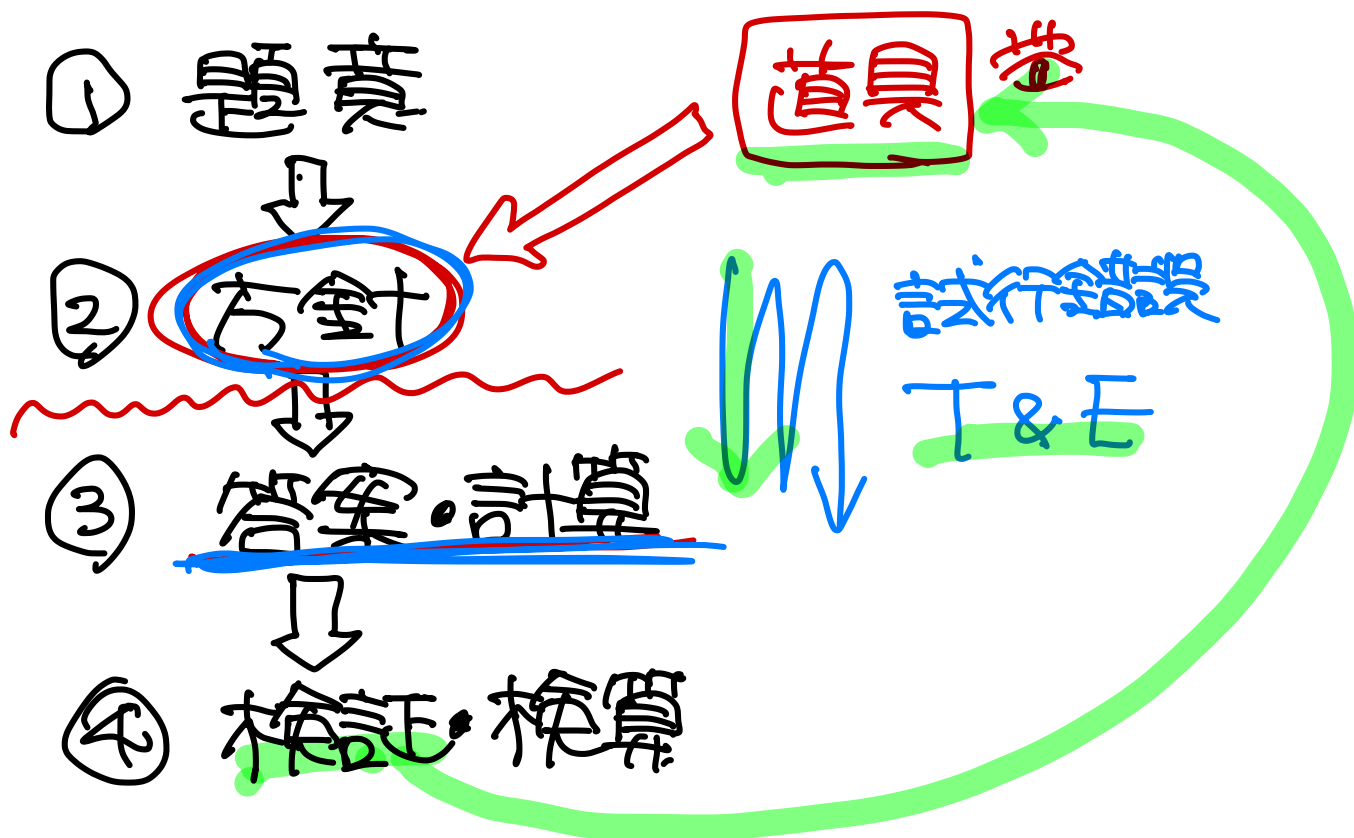
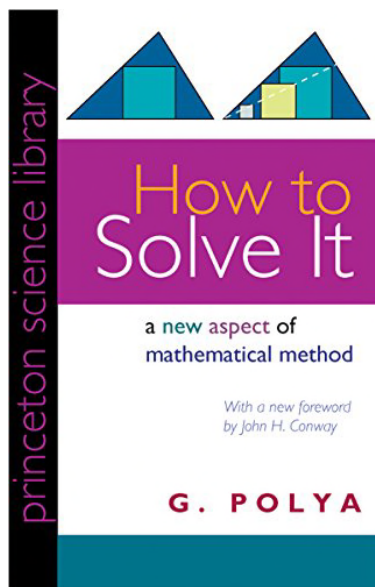
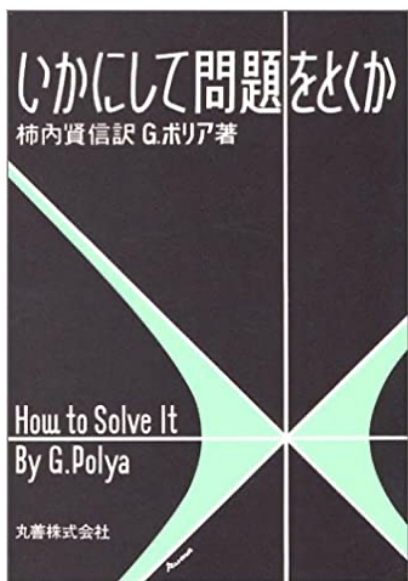
● ライブ授業中に出された. 課題
(演習課題とは別) もあり.

本日は, 春期, ライブ授業の

catch up

ZOOMでのコミュニケーションを
練習などさせていただきます.

How to solve it



YAWARAKA!

数学道具箱 【体験版】

【例題 01】

方程式 $2x^2 - 3x + 4 = 0$ の 2 解を α, β とするとき, $(\alpha^2 + 2)(2\beta^2 + 3\beta + 4)$ の値を求めよ。

【例題 02】

k を実数とする。 x の 3 次方程式 $x(x^2 - 4k + 4) + k(k - 2)^2 = 0$ の解がすべて実数であるような k

の値の範囲は $\frac{\boxed{\text{タ}}}{\boxed{\text{チ}}} \leq k \leq \boxed{\text{ツ}}$ である。

【例題 03】

方程式 $x^3 + ax + a = 0$ の異なる実数解の個数を求めよ。ただし, a は定数とする。

【例題 01】

3 $\left\{ \begin{array}{l} \alpha + \beta = \frac{3}{2} \\ \alpha \cdot \beta = 2 \end{array} \right.$

方程式 $2x^2 - 3x + 4 = 0$ の2解を α, β とするとき、

$(\alpha^2 + 2)(2\beta^2 + 3\beta + 4)$ の値を求めよ。

変形式はない

2 代入 & 変形

$$\begin{cases} 2\alpha^2 - 3\alpha + 4 = 0 \\ 2\beta^2 - 3\beta + 4 = 0 \end{cases}$$

$$\begin{cases} \alpha^2 = \frac{3}{2}\alpha - 2 \\ \beta^2 = \frac{3}{2}\beta - 2 \end{cases}$$

2次 \rightarrow 1次

$$(\text{変形}) = \frac{3}{2}\alpha \times 6\beta = \underline{9\alpha\beta} = 18$$

変形式

注 解の公式で α, β を求めると $\alpha = \frac{3 \pm \sqrt{23}}{4}$ と $\beta = \frac{3 \mp \sqrt{23}}{4}$ となる。

$$x = \frac{3 \pm \sqrt{23}}{4}$$

【例題 04】 $x^2 + y^2 = 2$ のもとで, $2x + y$ の最大値と最小値を求めよ。(できるだけ多くの解法で解け)

【例題 05】 正の数 a, b が $a^3 + b^3 = 5$ を満たすとき, $a + b$ のとりうる値の範囲を求めよ。(2012 昭和)

$k=$ とおく

【例題04】 $x^2 + y^2 = 2$ のもとで、 $2x + y$ の最大値と最小値を求めよ。

① ~~消去~~

$$x^2 + (k - 2x)^2 = 2$$

$$5x^2 - 4kx + k^2 - 2 = 0$$

重なり ← 共有点

$$D/4 = (-2k)^2 - 5(k^2 - 2) \geq 0$$

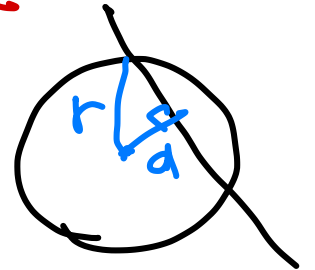
$$-\sqrt{10} \leq k \leq \sqrt{10}$$

② ~~図示~~

$$\Rightarrow \boxed{5 \cdot \pi} \leq \text{半径}$$

$$d \leq r$$

$$\frac{|k|}{\sqrt{5}} \leq \sqrt{2}$$



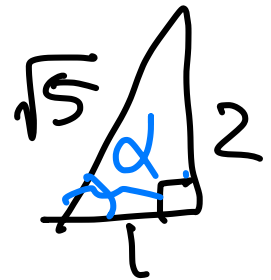
③ ~~三角~~

$$x = \sqrt{2} \cos \theta, y = \sqrt{2} \sin \theta$$

$$k = \sqrt{2} (\sin \theta + 2 \cos \theta)$$

$$= \sqrt{10} \cdot \sin(\theta + \alpha)$$

$$-\sqrt{10} \leq k \leq \sqrt{10}$$



【例題 04】 $x^2 + y^2 = 2$ のもとで、 $\checkmark k =$ $2x + y$ の最大値と最小値を求めよ。

④ ④ ④

$\vec{a} = (x, y)$, $\vec{b} = (2, 1)$ とおく

$|\vec{a}|^2 = x^2 + y^2 = 2$, $|\vec{b}|^2 = 5$

$\vec{a} \cdot \vec{b} = 2x + y = k$

← (コーシー・シュワルツの不等式)

$\therefore |\vec{a}|^2 |\vec{b}|^2 \geq (\vec{a} \cdot \vec{b})^2$

$\cos^2 \theta$ 左辺 右辺

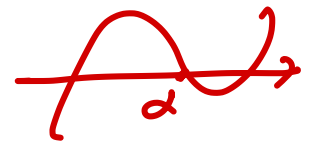
$|\cos^2 \theta| \leq 1$

$2 \times 5 \geq k^2$
 $-\sqrt{10} \leq k \leq \sqrt{10}$

⋮

解の問題の処理

- (1) 解を求める。
- (2) 解を元の方程式に代入 & 次数下げ
- (3) 解と係数の関係
- (4) 解 \Leftrightarrow 因数
 $x = \alpha \Leftrightarrow (x - \alpha) \text{ を因数にする}$
- (5) 解 \Leftrightarrow グラフの共有点の x 座標 (できれば定数分離)
 $x = \alpha$ 共有点 (α, \square)



(特殊な問題)

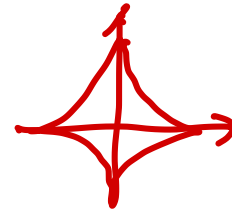
- 共通解
- 共役解
- 1 の 3 乗根 ω
- 相反方程式
- 3 次方程式の重解問題に注意

最大最小

基礎 グラフを描いて高さ比べ
 2次関数⇒平方完成
 三角関数⇒諸公式の利用
 一般には⇒微分

応用 2変数以上 or 整式(n 次式)でないとき など

- (1) **一文字消去** (ただし変域に注意)
- (2) **図示**して共有点の存在条件に帰着 (線形計画法)



- (3) **文字の置き換え (変域に注意)**
 (対称式は和と積で, $x = \frac{b}{a}$ など)
 (注) 和と積の置き換えでは隠れた実解条件に注意

パラメータ表示

パラメーター表示 (円・だ円・双曲線など) 直線 (プストロイド)
 $x^2 + y^2 = r^2$ のとき, $x = r \cos \theta, y = r \sin \theta$ と表せる。(2変数⇒1変数)

- (4) **有名不等式の利用** コーシー・シュワルツの不等式
 (例) 相加相乗, Cauchy-Schwarz の不等式など
 - ・ 相加相乗 $a > 0, b > 0$ のとき, $a + b \geq 2\sqrt{ab}$ が成立 (等号成立は $a = b$)
 - ・ **CS-不等式** $|\vec{a}|^2 |\vec{b}|^2 \geq (\vec{a} \cdot \vec{b})^2$ (等号成立は $\vec{a} // \vec{b}$ のとき)
 - ・ 三角不等式 $|\vec{a}| + |\vec{b}| \geq |\vec{a} + \vec{b}|$ (等号成立は \vec{a}, \vec{b} が同じ向きするとき)

- (5) **逆手法** (主役交代して, 解の存在条件に帰着)

- (6) (最後の手段) **一文字固定**

準有名角

① 15° family ~ 加法定理から

$$\sin 15^\circ = \frac{\sqrt{3}-1}{2\sqrt{2}} = \frac{\sqrt{6}-\sqrt{2}}{4}, \quad \cos 15^\circ = \frac{\sqrt{3}+1}{2\sqrt{2}} = \frac{\sqrt{6}+\sqrt{2}}{4}, \quad \tan 15^\circ = 2-\sqrt{3}$$

$$\sin 75^\circ = \frac{\sqrt{3}+1}{2\sqrt{2}} = \frac{\sqrt{6}+\sqrt{2}}{4}, \quad \cos 75^\circ = \frac{\sqrt{3}-1}{2\sqrt{2}} = \frac{\sqrt{6}-\sqrt{2}}{4}, \quad \tan 75^\circ = 2+\sqrt{3}$$

② 22.5° family ~ 半角公式から

$$\sin 22.5^\circ = \frac{\sqrt{2-\sqrt{2}}}{2}, \quad \cos 22.5^\circ = \frac{\sqrt{2+\sqrt{2}}}{2}, \quad \tan 22.5^\circ = \sqrt{2}-1$$

③ 18° family ~ 2倍角&3倍角, 正5角形の対角線利用, 相似利用

$$\sin 18^\circ = \cos 72^\circ = \frac{\sqrt{5}-1}{4}, \quad \cos 36^\circ = \sin 54^\circ = \frac{\sqrt{5}+1}{4}$$

三角関数基本チェック

【例題 06】 $0 \leq x < \pi$ のとき, 方程式 $2 \cos 2x + 2(\sqrt{3}-1) \sin x + \sqrt{3} = 2$ を解け

【例題 07】 関数 $f(x) = 3 \sin 2x - 4 \cos 2x$ の最大値と最小値を求めよ。

【例題 08】 関数 $f(x) = \sin 2x - \sin x - \cos x$ の最大値と最小値を求めよ。

【例題 09】 関数 $f(x) = \sin^2 x + \sin x \cos x + 4 \cos^2 x$ の最大値と最小値を求めよ。

【例題 10】 関数 $f(x) = \frac{\sin x - 1}{\cos x - 2}$ の最大値と最小値を求めよ。

7 C

$\frac{1}{\sqrt{2}-1}$ の整数部分を a 、小数部分を b ($0 \leq b < 1$) とするとき、 $ab + b^2$ の値を求めよ。

8 C

答え & 記法

(1) $(ac + bd)^2 + (ad - bc)^2$ を因数分解せよ。

(2) $a^2 + b^2 = 1$, $c^2 + d^2 = 1$, $ac + bd = 1$ のとき、 $ad - bc$, $a^2 + d^2$, $b^2 + c^2$ の値を求めよ。

入試問題にチャレンジ (1)

n を整数とすると、

$$f(n) = |n-1| + |n-2| + |n-3| + \cdots + |n-99|$$

の最小値を求めよ。

(2010・産業医科大学)

15 C

x の連立不等式 $\begin{cases} 7x - 5 \geq 13 - 2x \\ x + a > 3x + 5 \end{cases}$ を満たす整数 x がちょうど 3 個存在するような

定数 a の値の範囲を求めよ.

16 C

A 地点から 26km 離れた B 地点に行くのに、初めはバスに乗り、途中タクシーに乗り換えて 40 分以内に B 地点に着きたい。バス停が A 地点から 2km ごとに設けられているとき、タクシーで走る距離をできるだけ少なくするには、A 地点からいくつ目のバス停で乗り換えればよいか。ただし、バスは時速 30km、タクシーは時速 50km とし、いずれも待ち時間はないものとする。

入試問題にチャレンジ (2)

不等式 $\sqrt{n+1} - \sqrt{n} > \frac{1}{100}$ を満たす自然数 n の最大値を求めよ.

(2009・東京医科大学)

23 C

a は定数とする. x の不等式 $(a-2)x^2 + (4-a)x - 2 \geq 0$ を解け.

24 C

方程式 $x^2 + 18 = 9[x]$ を解け. ただし, $[x]$ は実数 x を越えない最大の整数を表すものとする.

入試問題にチャレンジ (3)

3つの2次方程式 $x^2 + 2x - a = 0$, $2x^2 - ax + 1 = 0$, $-ax^2 + x + 2 = 0$ が, ただ1つの共通の実数解をもつような定数 a の値を求めよ.

(2006・自治医科大学)

39 C

実数 x, y が $x^2 + 2y^2 = 1$ を満たしながら変化するとき、 $\frac{1}{2}x + y^2$ の最大値、最小値を求めよ。さらに、そのときの x, y の値を求めよ。

40 C

放物線 $y = -x^2 + 6x$ と x 軸で囲まれる部分に内接する長方形 (一辺は x 軸上にある) のうちで、周の長さが最大になる長方形の 2 辺の長さを求めよ。

入試問題にチャレンジ (5)

k は実数の定数とする。関数 $f(x) = x^2 - 4|x| + k$ の最小値を $m(k)$ 、最大値を $M(k)$ とする。

- (1) $m(k) = 2$ のとき、 k の値を求めよ。
- (2) $-1 \leq x \leq 5$ のとき、 $m(k)$ 、 $M(k)$ をそれぞれ、 k を用いて表せ。
- (3) 関数 $y = f(x)$ のグラフを直線 $y = k$ に関して対称移動するとき、その最大値を求めよ。

(2000・滋賀医科大学)

2019年度 FG 数学 IAIIB 【解答】 1 講

1 A (1) $(2x-1)(x-3)$ (2) $(x-1)(x^2+x+y)$ (3) $(x-3)(x+1)(x-1)^2$

2 A (1) $2\sqrt{3}$ (2) $\sqrt{5}-2$ (3) $\sqrt{7}+\sqrt{5}$

3 A 順に t^2-2 , t^3-3t

4 B (1) $(x+2y-3)(x-y+2)$ (2) $(x^2+2x+2)(x^2-2x+2)$
 (3) $(a-b)(b-c)(c-a)$ (4) $(x+y+1)(x^2+y^2+1-xy-x-y)$

5 B (1) $x + \frac{1}{x} = 4$, $x^3 + \frac{1}{x^3} = 52$ (2) $x + y = 2\sqrt{3}$, $\frac{y}{x} + \frac{x}{y} = 4$

6 B (1) $|a+1| + |a-3| = \begin{cases} -2a+2 & (a < -1) \\ 4 & (-1 \leq a < 3) \\ 2a-2 & (a \geq 3) \end{cases}$

(2) $\sqrt{x+4a} - \sqrt{x-4a} = \begin{cases} -4 & (a < -2) \\ 2a & (-2 \leq a < 2) \\ 4 & (a \geq 2) \end{cases}$

7 C $ab + b^2 = 1$

8 C (1) $(ac+bd)^2 + (ad-bc)^2 = (a^2+b^2)(c^2+d^2)$
 (2) $ad-bc = 0$, $a^2+d^2 = 1$, $b^2+c^2 = 1$

チャレ1 $n = 50$ のとき、最小値 2450

2019年度 FG 数学 IAIIB 【解答】 2 講

9 A $3.5 \leq x < 4.5$

1 0 A (1) $-1 < x + 2 < 3$ (2) $15 < 5y < 35$ (3) $-23 < 3x - 2y < -3$

1 1 A (1) $x = -2, 8$ (2) $-2 < x < 8$

1 2 B (1) $11.5 \leq 2x + y < 14.5$ (2) $-2.5 < x - 2y < 0.5$

1 3 B (1) $-2 \leq x < 3$ (2) $-2 < x \leq 1$

1 4 B (1) $x \leq -4, -1 \leq x$ (2) $x < \frac{3}{2}$

1 5 C $13 < a \leq 15$

1 6 C 5 つ目

チャレ 2 2499

2019年度 FG 数学 IAIIB 【解答】 3講

17A (1) $x = 3, 4$ (2) $x = \frac{5 \pm \sqrt{13}}{6}$ (3) $x = 2, -3$ $x = 2, -3$.

18A (1) $-4 < x < 6$ (2) $\frac{1}{2} \leq x \leq 3$ (3) $x < \frac{5 - \sqrt{13}}{6}, \frac{5 + \sqrt{13}}{6}$

19A $k = 5$ のとき $-\frac{1}{2}$, $k = -3$ のとき $\frac{1}{2}$

20B (1) $(x, y, z) = (-1, 3, 6)$ (2) $(x, y) = (0, 5), (-4, -3)$

21B $k \leq 0, 3 \leq k$

22B $k = 0, 2$

23C
$$\left\{ \begin{array}{ll} x \leq \frac{2}{2-a}, 1 \leq x & (a > 2) \\ x \geq 1 & (a = 2) \\ 1 \leq x \leq \frac{2}{2-a} & (0 < a < 2) \\ x = 1 & (a = 0) \\ \frac{2}{2-a} \leq x \leq 1 & (a < 0) \end{array} \right.$$

24C $x = 3, 3\sqrt{2}, 3\sqrt{3}, 6$

チャレ (3) $a = 3$.

2019 年度 FG 数学 IAIIB 【解答】 4 講

2 5 A (1)真 (2)偽 (3)偽 (4)偽

2 6 A $A = \{3, 6, 9\}, B = \{3, 4, 7, 10\}, A \cap \overline{B} = \{6, 9\}$

2 7 A 7 個

2 8 B 元の命題 偽

逆 「 $x = 2$ かつ $y = 3$ ならば $x + y = 5$ 」 真

裏 「 $x + y \neq 5$ ならば $x \neq 2$ または $y \neq 3$ 」 真

対偶 「 $x \neq 2$ または $y \neq 3$ ならば $x + y \neq 5$ 」 偽

2 9 B (1)(b) (2)(a) (3)(d) (4)(c) (5)(b)

3 0 B (1)方針=対偶を証明 $n = 7k + (\text{あまり})$ とおく。

(2)方針=背理法

(3) $(x, y) = (5, 3)$

3 1 C 略

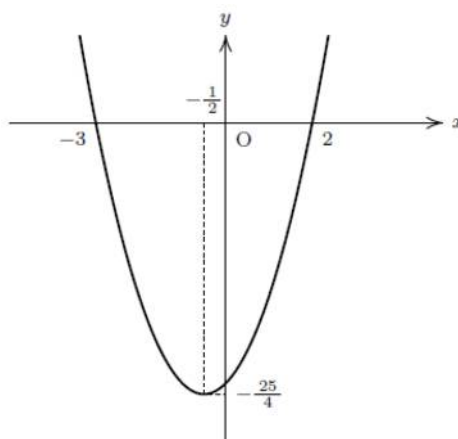
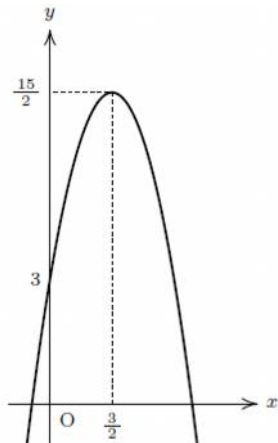
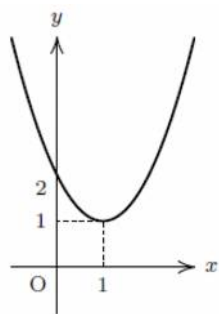
3 2 C 略

チャレ4 45 人

2019年度 FG 数学 IAIIB 【解答】 5講

3 3 A (1)軸 $x = 1$, 頂点 $(1, 1)$ (2)軸 $x = \frac{3}{2}$, 頂点 $(\frac{3}{2}, \frac{15}{2})$

(3)軸 $x = -\frac{1}{2}$, 頂点 $(-\frac{1}{2}, -\frac{25}{4})$ 【解法】平方完成



3 4 A (1) $x = 5$ のとき最大値 5, $x = 3$ のとき最小値 1

(2) $x = 1$ のとき, 最大値 $\frac{7}{2}$, $x = -2$ のとき最小値 -10 【解法】平方完成

3 5 A (1) $y = \frac{1}{2}(x - 1)^2 + 5$ (2) $y = 2x^2 - 5x + 2$

【解法】(1) $y = a(x - p)^2 + q$ 型 (2) $y = ax^2 + bx + c$ 型

3 6 B (1) $y = 2x^2 + 1$ または, $y = 2(x - 1)^2 + 3$ (2) $(a, b) = (7, 9)$

【解法】2次関数なので, 平行移動・対称移動は「頂点と最高次係数」に着目

3 7 B $(a, b) = (2, 5), (-2, 9)$ 【解法】 $y = a(x - p)^2 + q$ 型

3 8 B (1) $m(a) = \begin{cases} 1 & (a < 0) \\ -4a^2 + 1 & (0 \leq a \leq 1) \\ -8a + 5 & (a > 1) \end{cases}$

(2) $M(a) = \begin{cases} -8a + 5 & \left(a < \frac{1}{2} \right) \\ 1 & \left(a \geq \frac{1}{2} \right) \end{cases}$

【解法】(1)下に凸の最小値 \Rightarrow 軸が変域の内か外かで場合分け (3パターン)

(2)下に凸の最大値 \Rightarrow 軸が変域の真ん中より右寄りか左寄りかで場合分け (2パターン)

3 9 C $(x, y) = \left(\frac{1}{2}, \pm \frac{\sqrt{6}}{4} \right)$ のとき最大値 $\frac{5}{8}$, $(x, y) = (-1, 0)$ のとき最小値 $-\frac{1}{2}$

4 0 C 2 と 8

チャレ5 (1) $k = 6$ (2) $m(k) = k - 4, M(k) = k + 5$ (3) 最大値 $k + 4$

2019年度 FG 数学 IAIB 【解答】 6 講

4 1 A (1)右図 (2) $0 < k < 4$

【解法】 (1)全体絶対値のグラフ⇒折り返し (2)定数分離 (済)

4 2 A $(a, b) = (-1, 1)$

【解法】 結論からお迎え (解⇔因数)

4 3 A $-2\sqrt{6} < k < 2\sqrt{6}$

【解法】 不等式＝グラフの上下に帰着

4 4 A (1) $-6 < a < \frac{10}{3}$ (2) $a < -1$

【解法】 不等式＝グラフの上下に帰着

4 5 B $-5 < k < -4$

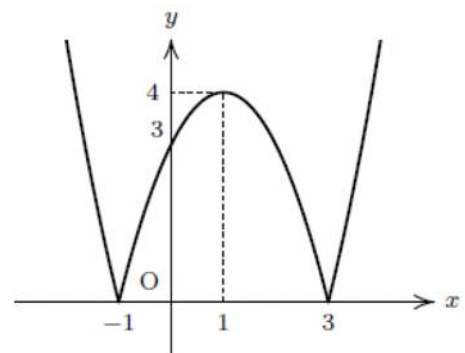
【解法】 方程式の解⇔グラフの共有点の x 座標に対応

(i)定数分離 (ii)絶対値分離 のいずれでも解ける

4 6 B $2 \leq k < \frac{5}{2}$

【解法】 2次方程式の解の配置問題

「解⇔共有点」の対応を利用して、「軸, 端点, 判別式」の利用



過去問めぐり・埼玉医大(1)

【1】

$0 \leq \theta \leq \pi$ とするとき、方程式

$$3\sin^2 \theta - (\sqrt{3} - 1)\sin \theta \cos \theta + (2 - \sqrt{3})\cos^2 \theta = 2$$

を満たす角 θ を小さい順に並べよ。

じやま
じやま?
↓

hint

方程式の基本は因数分解

$$A \times B = 0$$

$$\Leftrightarrow A=0 \quad \text{または} \quad B=0$$

過去問めぐり・埼玉医大(1)

$$A \times B = 0$$

$$A=0 \text{ または } B=0$$

【1】

$0 \leq \theta \leq \pi$ とするとき、方程式

$$3\sin^2\theta - (\sqrt{3}-1)\sin\theta\cos\theta + (2-\sqrt{3})\cos^2\theta = 2$$

を満たす角 θ を小さい順に並べよ。

$$2(\sin^2\theta + \cos^2\theta)$$

$$2(\sin^2\theta + \cos^2\theta)$$

$$\sin^2\theta - (\sqrt{3}-1)\sin\theta\cos\theta - \sqrt{3}\cos^2\theta = 0$$

$$(\sin\theta + \cos\theta)(\sin\theta - \sqrt{3}\cos\theta) = 0$$

$$\therefore \sin\theta + \cos\theta = 0 \quad \text{または} \quad \sin\theta - \sqrt{3}\cos\theta = 0$$

過去問めぐり・埼玉医大(1)

【1】

$0 \leq \theta \leq \pi$ とするとき、方程式

$$3\sin^2\theta - (\sqrt{3}-1)\sin\theta\cos\theta + (2-\sqrt{3})\cos^2\theta = 2$$

を満たす角 θ を小さい順に並べよ。

$$\frac{1-\cos 2\theta}{2}$$

$$\frac{\sin 2\theta}{2}$$

$$\frac{1+\cos 2\theta}{2}$$

$$3(1-\cos 2\theta) - (\sqrt{3}-1)\sin 2\theta + (2-\sqrt{3})(1+\cos 2\theta) = 4$$

$\sin\theta, \cos\theta$ の2次同次式 \Rightarrow 半角 & 合式 : 関数

~~半角公式~~

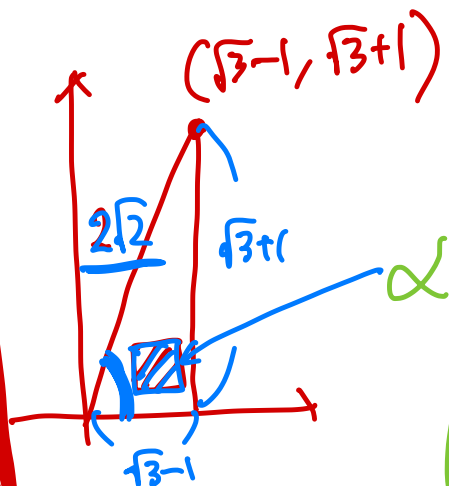
↓ 半角2次方程式 $\cos 2\theta$.

$$3(1 - \cos 2\theta) - (\sqrt{3} - 1)\sin 2\theta + (2 - \sqrt{3})(1 + \cos 2\theta) = 4$$

$$\begin{aligned} & \text{(x+1)} \\ & (\sqrt{3}-1)\sin 2\theta + (\sqrt{3}+1)\cos 2\theta = 1-\sqrt{3} \end{aligned}$$

合成

$$\sqrt{(\sqrt{3}-1)^2 + (\sqrt{3}+1)^2} = \sqrt{8} = 2\sqrt{2}$$



$$\begin{aligned} \cos \alpha &= \frac{\sqrt{3}-1}{2\sqrt{2}} = \frac{\sqrt{6}-\sqrt{2}}{4} \\ \sin \alpha &= \frac{\sqrt{3}+1}{2\sqrt{2}} = \frac{\sqrt{6}+\sqrt{2}}{4} \end{aligned}$$

従って $\alpha = 75^\circ = 45^\circ + 30^\circ$

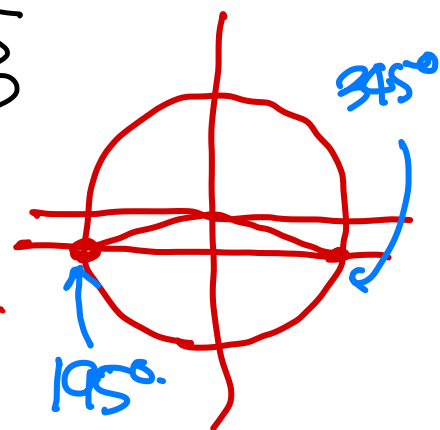
$$2\sqrt{2} \cdot \sin(2\theta + 75^\circ) = 1 - \sqrt{3}$$

$$\sin(2\theta + 75^\circ) = \frac{1 - \sqrt{3}}{2\sqrt{2}}$$

$$2\theta + 75^\circ = 345^\circ, 195^\circ$$

$$\theta = 45^\circ, 60^\circ$$

~~135^\circ~~



この計算
間違い

【3】

$$\sqrt{a+b+2\sqrt{ab}} = \sqrt{(\sqrt{a}+\sqrt{b})^2} = \sqrt{a}+\sqrt{b}$$

$\sqrt{10} + \sqrt{24} + \sqrt{40} + \sqrt{60} = \sqrt{\text{㉠}} + \sqrt{\text{㉡}} + \sqrt{\text{㉢}}$ である。ただし、

$\text{㉠} \leq \text{㉡} \leq \text{㉢}$ とする。

$$\sqrt{10+2\sqrt{6}+2\sqrt{10}+2\sqrt{15}} = \sqrt{(\sqrt{a}+\sqrt{b}+\sqrt{c})^2}$$

$$a+b+c + 2\sqrt{ab} + 2\sqrt{ac} + 2\sqrt{bc}$$

$\quad \quad \quad \underset{\sim 6}{\quad} \quad \quad \underset{\sim 10}{\quad} \quad \quad \underset{\sim 15}{\quad}$

$$a=2, b=3, c=5$$

検

• 空らんを文字でおく.

• 公式の活用

【1】

$$\begin{aligned} \text{問3. } & 3\sin^2\theta - (\sqrt{3}-1)\sin\theta\cos\theta + (2-\sqrt{3})\cos^2\theta \\ & = 2 = 2(\cos^2\theta + \sin^2\theta) \end{aligned}$$

より

$$\sin^2\theta - (\sqrt{3}-1)\sin\theta\cos\theta - \sqrt{3}\cos^2\theta = 0$$

$$(\sin\theta - \sqrt{3}\cos\theta)(\sin\theta + \cos\theta) = 0 \quad \dots\dots\textcircled{4}$$

$\cos\theta=0$ のとき、 $\sin\theta=0$ となり、矛盾するから $\cos\theta \neq 0$

よって、 $\textcircled{4}$ の両辺を $\cos^2\theta$ で割ると

$$(\tan\theta - \sqrt{3})(\tan\theta + 1) = 0 \quad \therefore \tan\theta = \sqrt{3}, -1$$

$$0 \leq \theta \leq \pi \text{ より } \theta = \frac{1}{3}\pi, \frac{3}{4}\pi \quad (\rightarrow (7) \sim (10))$$

$$\underline{\hspace{2cm}} \\ 60^\circ, 135^\circ$$

【例題 02】

k を実数とする。 x の 3 次方程式 $x(x^2 - 4k + 4) + k(k-2)^2 = 0$ の解がすべて実数であるような k

の値の範囲は $\frac{\text{タ}}{\text{チ}} \leq k \leq \text{ツ}$ である。

3次



重解は許す。

$$x^3 - 4(k-1)x + k(k-2)^2 = 0$$

$x = -k$ が解 \Rightarrow 因数分解。
 $(x + k)(x^2 - kx + (k-2)^2) = 0$

1個確定

$x = -k, x^2 - kx + (k-2)^2 = 0$

判別式 $D = k^2 - 4(k-2)^2 \geq 0$
 $(k+2(k-2))(k-2(k-2)) \geq 0$
 $(3k-4)(k-4) \geq 0$

$(3k-4)(k-4) \leq 0$

$\frac{4}{3} \leq k \leq 4$

方程式の解の処理

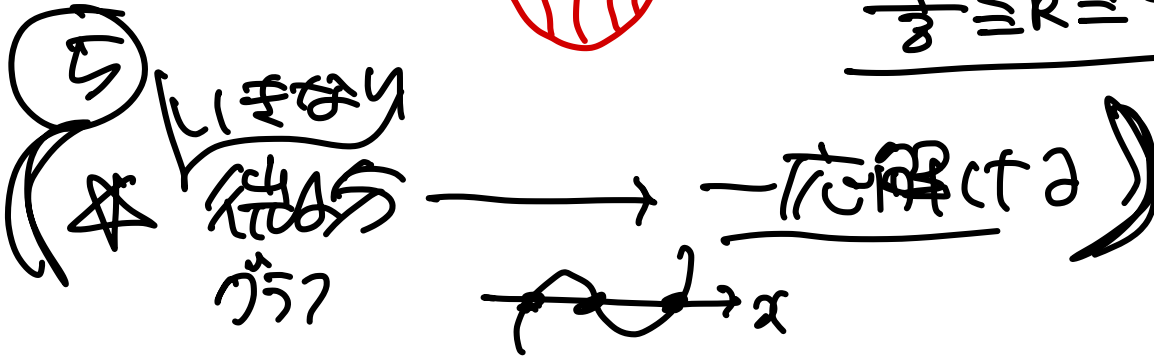
- ① 求める \Rightarrow さがす
- ② 代入 & 決数下げ
- ③ 解と係数の関係 k, k, k

実数 両方便2つ

- ④ 解 \leftrightarrow 因数
- ⑤ 解 \leftrightarrow 共有点の x (交点)

$x(x^2 - 4k + 4) + k(k-2)^2 = 0$

$x = k$ が解
 $k(k-2)^2 + k(k-2)^2 = 0$ X



解答対応しました

$$f(x) = x^3 - 4(k-1)x + k(k-2)^2$$

$$f'(x) = 3x^2 - 4(k-1) = 0$$

$\oplus \neq 0$
 が $x=0$
 $k \geq 1$

